

# 私の青春時代

## 鈴木淳司



私の青春時代は、目白台にある財団法人の学生寮「和敬塾」を抜きには語れない。学生時代をすごした和敬塾は、地方出身で都内の大学に在学する者のために、早大評議員の故・前川喜作氏が、その私財を投じて建てられた学生寮であるが、単なる寝起きの場ではなく、創立者自身の言葉を借りれば、イギリスのカレッジのごとく、生活を共にしながら学ぶ場を理想としたものでもあった。時に旧制高校現代版と目さ

れることも多く、ある面、硬派な男子学生寮であった和敬塾の中では、野球やテニスといったスポーツに加え、茶道や禅の会のような部活動もあり、塾生は各々別々の大学に通うため、その活動は朝六時台の早朝や夜間・休日といった時に行われ、外部から指導者を招いて行われる部もあった。

私もその中で、居合道や直心影流、禅といった活動に汗を流したが、優れた指導者から直接指導を受けたり、

### 国政への道しるべとなった珠玉の縁

各々の大学に通う先輩・同僚と、文字通り寝起きを共にし、同じ釜の飯を食う生活は、今から思えば珠玉の時間であった。在寮中の仲間や先輩との交流は今も続き、中央省庁はじめ、民間各所に多くの仲間やOBがいるのは、何とも嬉しいものである。

その後私は、故・松下幸之助氏の設立された松下政経塾に入り、政治の道へ進むことになるが、これまた自分は縁に導かれて人生を歩んでいるとしか

言いようがない。幼い頃、ケネディ大統領の暗殺の報に接して以来、政治に漠とした関心を持っていたものの、親戚縁者に誰一人政治家は無く、ごく普通の家庭に育った私が、実際に政治の世界に足を踏み入れることになったのは、政経塾の存在無くしてはあり得ない。ここでも多くの仲間を得、また数々の人との交流があった。

今は望むべくもないが、若き日には、よく旅をした。時に仲間と、またある時は一人旅と、旅は自身と向き合う時間でもあったように思う。今となれば贅沢な話ながら、ヨーロッパ諸国や中国・インドなど、一度出れば一か月くらい帰らないこともあったが、大学卒業から民間企業へ普通に進んでいけば、この様な機会は到底持ち得なかったと思われる。多くの出会いの縁を得、今、国政の現場にいるのも、自己を超えた何か大きな意志に導かれているように思えてならない。

(衆議院議員)



▲松下政経塾の同期生と。前列左から筆者、前田正子前横浜市副市長、樽床伸二前衆議院議員、中列左から、松沢成文神奈川県知事、笹木竜三衆議院議員(1987年、肩書は現在)



▲インド放浪中の一コマ。仏教の聖地といわれるブッダガヤの郊外にて(1989年)



▲和敬塾在塾中に励んだ居合道の演武を披露する筆者。学生時代に三段を取得



▲まちづくりイベントにて、子供たちと一緒に